2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
環境生態系分野	国際保健・生態疫学特論Ⅱ	依田 健志

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2	選択	2	

目的

（1）基礎医学，社会医学，臨床医学を包含した学際的知識を身につける。
（2）研究デザインと解析の妥当性（交絡・バイアス・欠測・感度分析）を理解する。
（3）骨粗鬆症，サルコペニアなどの疫学を理解する。
（4）国際保健を展開するための仕組みや精度を理解する。

授業到達目標

（1）因果推論の基本概念（交絡・バイアス・効果修飾・選択バイアス・情報バイアス等）を用いて、研究の妥当性を批判的に評価できる。
（2）研究疑問を PICO/PECO 等で定式化し、目的・仮説・主要評価項目・サンプルサイズ・解析計画を含む研究プロトコル骨子を作成できる。
（3）学位論文を仕上げるための方法論を実践できる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	隔週	火	17:00-19:00	依田 健志	講義	[抄読会] [研究検討会]	複数教室合同の抄読会や研究検討会を充てる。英文文献の紹介を原則とする。 [場所:本館棟 6 階第 12 カンファレンス室]

評価方法

（1） 1年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅲで紹介したものとは異なる論文 （症例）であること。
※２月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

紹介論文の要約について，添削して返却する。

教科書

特になし。

参考書

ISBN-9780199693474, Oxford Textbook of Public Health（5th Edition）, Roger Detels, et al., Oxford University Press, 2011

準備学習（予習・復習等）

（1）疫学的研究手法を予習しておくこと。
（2）国際保健に関連する文献･論文を次回までに読んでおくこと。
（3）抄読会で質問があった内容などは復習して次回に回答すること。
およそ２時間の準備学習が必要。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題を探求するための科学的思考法を習得するとともに，他分野の研究者とも交流し，幅広く知識を吸収する。

注意事項・メッセージ

文献紹介だけでなく，研究に関する手技，疑問，方向性など何でも相談してください。